

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070701711
法人名	株式会社 深田商店
事業所名	八幡西ケアセンター 和が家
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区御開3丁目9番53号 (電話) 093 601 3503

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成21年2月3日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)20,000円	
敷金	有(140,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(315,000円)	有りの場合 償却の有無	有(1年間)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500円	

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まつもと内科クリニック/東築病院/太平メディカルケア病院/福田歯科医院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム八幡西ケアセンター和が家は、鉄筋2階建ての2階部分に位置し2ユニットを有している。国道199号線の大通りから一歩、中に入った住宅街の一角に位置している。近くには本城陸上競技場があり、散歩に適した環境である。1階には同法人が運営するデイサービス・居宅介護支援事業所が併設しており、日常的に交流を行っている。法人の理念として「高齢者が地域で和やかに安心して暮らしていただける為に必要な社会福祉事業」を掲げ、2ユニットごとにそれぞれ「元気で明るく、楽しい和が家」、「のんびり、ゆっくり、居心地良く、くつろげる家族」を合い言葉にグループホームのあり方を追求している。運営推進会議には地域の自治区会長の協力のもと理解と協力が得られ、良好な関係を築いている。入居者の介護計画書はアセスメントにセンター方式を導入し作成している。日々の記録からも、入居者の思いに寄りそったケアやサービス提供に努めている点が評価できる。管理者・職員・入居者は、ホーム名の「和が家」のような温かい家族的な関係を築き、日々のケアに真摯に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善への取り組みとして 市町村との連携 職員を育てる取り組み 重度化や終末期に向けた方針の共有について指摘を受けている。改善に向けては、ミーティングなどで検討し、できる部分から改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価は運営推進会議で取り上げ、検討会議で報告を行っている。全職員で自己評価に取り組み、課題一つひとつについて、改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かして取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。外部評価に対する改善点とその改善結果なども運営推進会議で報告している。また、会議開催の際には、その都度、ホームの行事や活動報告・意見の収集や評価・改善についても検討の議論を行っている。会議の内容は、出席できなかった家族に、ホームに来られた際に閲覧できるようにしており、説明も行い、ホームの現状を知っていただくよう取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>運営推進会議に家族代表が複数参加し、家族の意見・要望を言っていたるように取り組んでいる。その意見や意向は運営へ反映していくよう取り組んでいる。また、意見箱も設置している。家族の面会時に近況を報告し、意見や意向を言っていたるように取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治区会長が中心となって、実行委員会を設置し、敬老会や町内会の行事に機会あるごとに参加している。1階のデイサービスには地域の方が利用され日常的に行き来がある。運営推進会議を通じて自治区会長が協力的で行事の案内もあり、地域の情報を把握できている。また、ホームの行事に地域の方を招いたり、日常の散歩時に気軽に挨拶や会話するなど、日常的に地域との交流を大切にしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念として「ご高齢者が地域でいつまでも和やかに安心して暮らしていただける為に必要な社会福祉事業」を掲げている。理念は地域密着型サービスとしての主旨をふまえ事業所独自の理念をつくりあげている。また、ユニットごとに理念の柱として基本方針もつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化を図るために運営推進会議や入居時、面会時など家族も含め関係者に機会あるごとに説明している。ユニットごとにそれぞれの基本理念と共に基本方針を毎朝のミーティング時や勉強会・研修などで唱和し、職員全員に理念が浸透するように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治区長が中心となって、実行委員会を設置し、敬老会や町内会の行事に機会あるごとに参加している。1階のデイサービスには地域の方が利用され日常的に行き来がある。運営推進会議を通じて自治区長が協力的で行事の案内もあり、地域の情報を把握できている。また、ホームの行事に地域の方を招いたり、日常の散歩時に気軽に挨拶や会話するなど、日常的に地域との交流を大切にしている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は運営推進会議で取り上げ、具体的な改善に取り組んでいる。自己評価・外部評価の評価内容について検討し、外部評価の意義を理解している。課題については全職員で改善に向けて取り組んでいる。今後、来年度に向け、更なるケアやサービスの質の向上が期待される。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。会議開催の際には、その都度、ホームの行事や活動報告・意見の収集や評価・改善についても検討の議論を行っている。会議の内容は、出席できなかった家族に、ホームに来られた際に閲覧できるようにしており、説明も行い、ホームの現状を知っていただくように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北九州市が派遣する介護相談員の派遣を受けている。また、市からの介護教室など委託要請があれば積極的に受託していく方針があり、行政との連携を高めていきたいと考えている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	地域福祉権利擁護事業・成年後見制度についての案内を玄関に掲示している。制度を利用している入居者が身近にいることで制度について研修を通じて正しい理解はできている。いつでも必要時は利用について家族へ説明ができるように支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に近況を報告している。また、毎月支払いのための来所時には生活状況の様子・日々の日誌の閲覧・金銭出納帳による毎月の領収書による報告を行っている。健康に関して急を要する場合など、必要時は電話で連絡している。家族アンケートより毎月の体重報告や職員の異動(事前に)など報告を希望されているので、検討をお願いしたい。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に市町村窓口を記載し、ホームの玄関に提示している。運営推進会議には、家族の代表が参加し、積極的な意見交換がある。また、家族の意見・要望を把握し、苦情に対しては記録に残すなど、運営面で活かす取り組みがある。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームとしてホーム内の職員異動は行わない方針である。離職は最小限に抑え、離職に関してもその引継ぎを充分に行っている。新規の採用の際には、入居者と職員のなじみの関係に配慮し、安心して混乱しないよう職員の固定化へ向けて取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用にあたっては、性別や年齢などを理由に採用対象から排除することではなく、幅広い年齢層を採用している。職員の思いや考えを取り入れ、相談しながら、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	定期的なカンファレンスや新人研修の場で、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。人権について周知を図り、研修も実施している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	新人及び現任に対し段階的に独自の自己評価チェックリストの作成と面談を実施している。今年度は職員の入替わりがあり、十分な研修が難しい状況にあった。今後は、内部・外部研修をすすめ、職員が積極的に受講することで質の向上に向けた意識改革や日々の業務に活かせるように研修充実を期待したい。		研修計画・研修報告の資料を整備し、外部研修は内部の伝達研修につなげるなど研修充実を期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	近隣の施設やグループホームとの情報交換・訪問により交流を行っている。地域内のグループホームの他、特養・有料老人ホームなど他サービス事業所の交流にも参加したり、積極的に情報交換などを行い、ネットワーク化に取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居の際には訪問や体験をしていただきながら、ホームの特性を理解していただき、本人の意向を大事に家族と相談しながら徐々に職員とのなじみの関係を築き、納得して入居できるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	センター方式を導入し、生活暦をアセスメントし、入居者が日常生活で得意とする分野を入居者から学び、暮らしの中で共に行えるように支援し、日常的に声かけ・傾聴により、お互いに支え合う関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	本人の生活暦・生活習慣・本人が希望する情報をセンター方式を取り入れ、アセスメントに反映している。入居者の日常的な会話・雑談などから担当職員だけでなく、全職員で入居者の状況を観察し、希望や意向の把握に努めている。今後は更に思いや意向を把握するために、家族との関わりの中で、入居者の生活暦や意向を掘り下げていくことを期待したい。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族からの情報、主治医の意見を担当者会議を開催し検討を行っている。入居者の思いや意向をアセスメントし、目標設定を行い、具体的かつ詳細な介護計画を作成している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	本人や家族の意見を検討し、課題や問題点などを明確にし、入所者の状態・状況の変化をアセスメントし、現状の計画に対し、3ヶ月ごとに見直しを行っている。更新時・入退院に伴う状態変化など、ケアの変更が必要な際には見直しを行い、現状に即した介護計画となっている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	深田グループは総合介護事業を展開し、1階のデイサービスや居宅介護支援事業所とは日常的に交流があり、地域との交流も盛んである。地元の商店街・幼稚園との交流も活発で、地域密着型サービスの主旨である地域で暮らし続けることの支援が充実している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
り					
21	45	かかりつけ医の受診支援	契約時に本人や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診することを基本としている。毎週金曜日は往診診療があり、日常の健康管理や処置がなされている。家族や本人と協議の上、専門医を受診する際には家族・職員が同行し連携を図っている。通院に関しては状況により家族の付きそいや職員の付きそいなど柔軟に対応している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居者・家族・かかりつけ医と話し合い、重度化の場合には、家族の意向をふまえ方針を明らかにし、職員・関係者と共に入居者にとって一番良い方向性を支援していきたいと考えている。		グループホームでは、どの状況まで対応できるかを明確にしておくことが望まれる。「グループホームとしての方針」「入居者ごとの支援方針」など全職員で話し合い、文書化していくことが望まれる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入社時の研修やカンファレンスの際に徹底して個人情報保護法について情報を共有している。また、プライバシー保護について入居者への言葉かけや態度・個人情報の取り扱いなど日々の業務の中で十分話し合い取り組んでいる。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者一人ひとりのペースを大事に考え、外出・散歩・ドライブなど含め、日々の観察の中で個別の生活リズムにそった過ごし方を支援している。得意分野を把握し、それぞれが思い思い過ごせるように個別に柔軟に支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者と職員と一緒に食卓を囲み、職員が食事介助している場面もみられる。献立は基本的にはデイサービスとの連携で栄養士が作成している。ユニットごとに分担して調理を行い、連携して日常の嗜好を把握し献立に反映している。四季折々の旬の食材を加え、また、嚥下が悪い入居者には、とろみを付けた食事を提供するなど、食事を楽しみに美味しく召し上がっていただくように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	時間は午後から夕方までの入浴を支援している。入居者の身体状況や希望に合わせ、毎日、希望にそって入浴できるように柔軟な対応を行っている。重度化しつつある入居者の身体に負担がないように、デイサービスの入浴を支援することもあり、希望にそって、プライバシーに配慮した入浴支援を行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居時に生活歴や趣味など好みを把握し、アセスメントから計画への反映に努めている。食事づくり・配膳・後片づけなど、得意分野を活かした取組みがなされ、役割や楽しみごと・気晴らしの支援に工夫がある。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の気分に合わせ散歩や買い物は日常的に行っている。近隣の本城陸上競技場への散歩はその日の天候に応じて日常的に実施している。また、季節感を感じていただけるように桜・藤・菜の花・コスモスなど季節ごとのドライブで花見や外食などを楽しんでいただけるように支援している。運動会など家族と出かける機会も大切に支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	フロアの出入り口は施錠しなくても安心して生活できる体制がある。1階とはエレベーターや広い階段で行き来でき、ユニット間は自由に行き来できる。玄関は1階にあり、目が行き届かないため、治安の関係上施錠し、出入りはインターホーンにより、2階で操作できるようにしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	火災・地震などの緊急救命マニュアルを作成し、応急処置の訓練などを行っている。地域には運営推進会議を通じて年2回消防署の指導により、地域住民も参加して3月・9月に避難訓練を行っている。2階の居室全体の周りにはベランダや非難通路が確保されている。デイサービスと合同訓練の連携もあり、法人の協力で飲料水の備蓄や非常食も確保している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	献立については併設のデイサービスの栄養士に相談している。栄養バランスや水分については主治医に相談しながら一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。嗜好調査や食事の残量・水分量のチェックを行い、記録の整備や月1回の体重測定により健康管理を行っている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	ホールの壁には写真や入居者と職員の手作りの作品が飾られ、季節感を感じる工夫があり、家庭的で居心地が良い環境となっている。ホール内の各所に何時でも休息できる座卓やソファ・椅子などがあり、思い思いに過ごすことができるようになっている。ベランダにはベンチやプランターがあり、季節感を感じる工夫があり、日当たりがよく、日光浴など、くつろげる雰囲気となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居時に本人・家族の意見を取り入れ、慣れ親しんだ、なじみの物や使い慣れた物を持ち込んでいただき落ち着いた環境を提供している。居室には、写真が飾られ、自宅で使っていたテレビや家具などを持ち込み、生活やプライバシーに配慮した、本人が居心地よく過ごせる住まいとしての工夫がある。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			